

令和	6	年度	事業者番号	0462	事業所番号	046202
----	---	----	-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C
C	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあっては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	埼玉県庄和浄水場
事業所所在地	市区町村 春日部市
	字・地番 新宿新田100番地
産業分類名(中分類)	36 水道業
分類番号(中分類)	36
事業活動の概要	事業内容 水道用水供給事業 従業員数 38名 送水量 年間79百万m3

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	【第3計画期間】基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を20%とする。 (必要に応じて排出量取引を活用する)				
	その他ガス					
エネルギー起源CO ₂ の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	46,712	t-CO ₂			
	削減目標量(計画期間合計)	11,678	t-CO ₂	事業所区分	第2区分	

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)					
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	4,182	4,189	4,208	4,539	

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO₂換算（t-CO₂）

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO ₂	8,289	8,305	8,339	8,997	
前 年 度 比 （ % ）	—	0.2	0.4	7.9	
そ の 他 ガ ス	非 エ ネ ル ギ ー 起 源 CO ₂				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ふ っ 化 い お う				
	三 ふ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計		8,289	8,305	8,339	8,997

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO₂）

CO₂換算（t-CO₂/指標）

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO ₂ 排出量原単位	0.1105	0.1146	0.1121	0.1145	
前 年 度 比 （ % ）	—	3.7	-2.2	2.1	
活 動 規 模 の 指 標 単 位					
生産量	千m ³ /年	74,983.41	72,453.11	74,380.71	78,586.86

（４）エネルギー起源CO₂排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	令和元年度に比べ令和2年度は他場工事に係る応援給水ための送配水量が減少したため、排出量が減少した。					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	令和3年度は着水井耐震補強工事でバイパス管運用をしていたため令和2年度より排出量原単位が増加した。					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	着水井耐震補強工事の完成により、バイパス管から通常運用に変更したことで、令和4年度は令和3年度より排出量原単位が減少した。 休憩室19.44m ² を撤去した。					
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	大久保浄水場への応援送水等により、送水量が約5.7%増加したため、CO ₂ 排出量が大幅に増加した。また、年間を通して河川水位が低かったこと、除塵機修繕による片系導水期間が長かったこと等の要因により、取水ポンプでのエネルギー使用量が増大、原単位が悪化した。					
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	11,678	t-CO ₂ /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量（t-CO ₂ /年）
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO₂)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量等	基準排出量(A)	11,678	11,678	11,678	11,678	11,678	58,390
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 ($C = \Sigma A - D$)						46,712
	排出削減目標量 ($D = \Sigma (A \times B)$)						11,678
実 績	エネルギー起源 CO ₂ 排出量(E)	8,289	8,305	8,339	8,997		33,930
	削減率 ($F = (A - E) / A$)	29.02%	28.88%	28.59%	22.96%		—
	排出削減量 ($G = A - E$)	3,389	3,373	3,339	2,681		12,782
各年度の排出量の検証		実施済	実施済	実施済	未実施		

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
1	360700		ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等 36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	送水ポンプの回転数制御化		R1以前	1,407
2	360700		ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等 36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	取水ポンプの回転数制御化		R1以前	303
3	380700		照明設備 38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	ろ過池管廊照明のLED化		R1以前	
4	360700		ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等 36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	P C 浄水池循環ポンプの設置		R1以前	169
5	380700		照明設備 38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	送水ポンプ棟照明のLED化	R3	R3	10
6	330200		空気調和設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	管理本館空調設備の更新	R3	R3	
7	360700		ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等 36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	沈でん池機械設備（掻寄機、フロキュレータ）の更新	R7以降		19
8	360700		ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等 36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	急撹ポンプの更新	R6		95.0
9	330200		空気調和設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	高効率空調への更新	R5	R5	0.5
10	360700		ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等 36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	沈殿池スカムスキーマ運用改善による汚水返送ポンプ運転時間短縮	R5	R5	22.0
11	360700		ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等 36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	庄和浄水場送水圧力の低減	R6		164.0
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

